

学校評価報告書

深谷市立幡羅幼稚園

1 学校評価のねらい (学校としての受け止め)

- ・指導の改善や子どもの「心情・意欲・態度」の形成に活かすため
- ・保護者と連携を取り合って、より良い園運営をするため

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- ・自己評価
- ・学校関係者評価
- ・方 法 両者ともアンケート形式で実施（要記名）
保護者には、記述式で実施している。

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

- ・学校関係者評価では、園の教育活動について97%の保護者が概ね良好であると答えており、昨年よりの98%とほぼ同様である。
- ・自己評価では保育指導等について、職員は概ね達成されていると考えており、昨年とほぼ同様である。
- ・“幼稚園の教育方針や行事、活動内容を知っている”では、97%が、「あまりあてはまる」と答えた。園便りやホームページ、懇談会等を有効に活用して、わかりやすい情報発信を心掛けた成果であり、昨年度よりも高い評価となった。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

- ・学校関係者評価では全園児が“園児は幼稚園に行くことを楽しみにしている”“仲良しの友だちがいる”“楽しく意欲的に遊びに取り組んでいる。”の問いに「あてはまる」と答えている。これは職員が、教育目標の『げんきに、なかよく、たくましく』を合言葉に日々、この目標に向けて園児を指導していることが分かる。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

- ・“自分の思っていることを先生や友だちに伝える。”では、83%の幼児があてはまると答えており、研究課題である「身近な自然や人とのかかわる経験を通し、思いやりの気持ちや言葉で伝え合う力の育成」については、概ね達成されていると考えられる。

4 次年度に向けての展望

- ・“挨拶や「ありがとう」などを自分から言える。”“自分の思っていることを先生や友だちに言える。”では、どちらも、16.7%が「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と答えた。次年度は、言葉で伝え合う力の育成により力を入れて指導にあたりたい。